

いま伝えたい

被爆者から

2015年・被爆70年
NPT再検討会議へ

太陽がなくなった

被爆したのは活水女学校(ミッシヨンスクール)の1年生の時でした。8月9日は朝から空襲警報が発令され自宅にいました。警報が解除になり、警戒警報に変わったので登校途中栄町の長崎銀行あたりまで行ったら、再度空襲警報になったので帰宅しました。

地下防空壕の中の水がたまっていたので、それをくみ出していたとき、ピカーとしてすごい風がきて防空壕の中に投げ飛ばされました。しばらくして外に出てみたら太陽がありませんでした。爆風で壊れた家などの瓦礫が飛ばされ、ごみが空中を舞って暗かったです。後からまるで月

〈2〉世の中をよくするのは女性の力

のような太陽が出ていました。私は特にはがなどもありませんでした。家にいた母と兄、自転車で出かけていた父も無事でした。家はつぶれて

いませんでした。が、窓は全部割れていました。

その日のうちに市外(戸石町)の知り合いのところへ兄と2人で歩いて避難しました。戸石には多くの人がボロボロになって逃げてきていて、それは夜中まで続きました。父が薬剤師で薬局を経営していたので、両親は2人とも勝山小学校の講堂だけが人の救護にあたるため残りました。

翌日、両親のことが心配で勝山小学校に戻って見たら、生きていても火傷したところにハエがたかっている被爆者に、両親は家から持ってきたチンク油やホウ酸を塗ってあげていました。何日かた

って、父はけが人の血液などがついたのでお風呂に入るために家に帰りましたが、お風呂からあがったら動けなくなりました。父の体に紫斑ができていました。その後も体



長崎市 荒木サキさん(81)

調はよくありませんでしたが、薬剤師として勤務しました。母は戦後2年たった1947年に亡くなりました。

どこの国とも仲良く

戦後、学校が再開されたとき、アメリカ人の校長先生が話されたことが強く心に残っています。

「女性は子どもを産み育てるので世の中を見る目を神様からもらっている。子どもの将来まで見通す力を持っている。世の中をよくするのは女性の力です」という内容でした。

結婚し3人の子どもの恵まれました。世の中の動きに反発を覚えることもありましたが、夫の在職中は行動を控えていました。退職を機に核実験に抗議する座り込みや、核兵器廃絶署名にとりくむなど、平和の行動に力を注いできました。なか

でも、新婦人のコーラス小組に入り原水爆禁止世界大会のステージに立たたことは大きな喜びでした。

また、被爆者・渡辺千恵子さんの生涯を組曲で歌う「平和の旅へ合唱団」では、長崎県内の学校や修学旅行で長崎を訪れた子どもたちへ被爆者の思いと平和の尊さを伝えることができました。

若い人たちに考えてほしいことは、戦争は絶対にしてはいけないということです。ドラマ(NHK『ごちそうさん』)にもあったように、みんなが同じ考えになるのは怖いことです。相手の国の人たちにも家族があります。どこの国とも仲良くしてほしいと思います。

(聞き手 長崎支部
山中久美・新木智子)

※①は新年号8面、
広島の久保美津子さん。